

和地ひとみレポート No.37

平成24年 第1回定例会 和地ひとみ一般質問①

基礎学力の低下の問題は、学ぶ意義を伝えていないことでは？



■教育の本質に言及

…H24年第1回定例会で、和地ひとみは以下の2つのテーマについて一般質問をおこないました。

- ① 学校教育について。特に各校の裁量の出る「総合的な学習の時間」と「キャリア教育」について
- ② 介護予防事業について、特に「東大和元気ゆうゆう体操」

について質問を行いました。

…和地ひとみが市議会議員にならせていただき約1年。様々な場面で、当市の児童、生徒の学力の問題について、耳にすることがありました。しかし、当市にだけ特別な子どもたちが住んでいるとも考えられず、そこには何かしら教育の問題があると感じていました。

…そもそもこのような教育の問題は当市に限ったことではありません。国際教育到達度評価学会がおこなったTIMSS国際数学理科教育調査では、日本の子供たちは数学、理科ともに教科の平均点は国際的にみても上位であるにも関わらず「勉強は楽しい」と答えた割合も「将来、自分が望む仕事に就くために良い成績を取る必要がある」と答えた割合も、世界の中で最も低いものとなっています。そこで、文科省はこのような状況を改善すべく新学習指導要領では「望ましい勤労観」を伝えるための工夫の一つに「総合的な学習の時間」と全教科を通じて伝えるものとして「キャリア教育」を位置づけています。

■各校の個性がでる科目だからこそ

…「総合的な学習の時間」は、各校の児童、生徒が置かれている環境によって、地域や社会の協力を得て、世の中のことを学ぶメニューを各校で決められる教科です。当市では、各校が年間のスケジュールを教育委員会に提出し、問題がなければ受理され、年間の教育が進められます。しかし、地域＝実際の社会とのふれあいの必要性をいながらも、その内容を公表している学校とそうでない学校があるというのが当市の状況です。その状況について質問をすると、当市では各校の校長の経営に任せられており、公表についての統一のルールは持っていないという答弁がありました。

…また、学区制をとっている当市においては、通学する学校において、子供たちが受けられる教育の内容、質が変わってしまう可能性があるという点について確認すると、その点について教育委員会は問題視しているとい

う答弁があったと共に、そのギャップを埋める努力をしなければならないことを認めてもらえました。また、キャリア教育については、全教科を通じて、教師が児童、生徒たちに、この学びが社会に出た際にどのように役立つのか、また、自身の可能性や将来にどのように結びつくのかを伝えていかなければならないとされており、その興味関心によって学習したことが確実に身に付くことを目的とされています。その点について、当市の教師が日常的にそのことを意識して児童、生徒と接しているかについては、まだまだ不十分、意識が足りないという事実があるという答弁がありました。

■先生方の多忙は子供の不幸？

…日本の労働力人口は約6565万人、そのうち国家公務員は約1%の60万人、地方公務員は約4.5%の295万人。うち、幼稚園から小中高などの教師は約100万人というデータがあります。要するに労働力人口のうち1.52%ほどのみが教師という職業につき、そのほかの人は他の職業について社会の一員になります。学校の先生は基本的には民間企業に勤めず、教師になられています。先の割合を考えた場合、生徒、児童の98%以上が教員以外の仕事に就くことになる状況を踏まえた場合、キャリア教育や社会に出てからの生き方を子供たちに伝えていくためには、民間の活用や、地域の協力が必要と考えます。

…「総合的な学習」や「キャリア教育」については、教科書がない分、しっかりと取り組もうとすると、事前のリサーチや準備が大変です。教師が多忙な毎日を過ごしているということが言われている昨今、本当に子どもたちが社会に出るための準備をするための刺激、気づきを与えるための授業を展開するには教師の負担は大きなものであることも事実です。

…他市では市全体として取り組むということを進めているところや、民間の力を借りて、子供たちの視野を広げさせるための授業を展開しているところもあります。当市においては、市全体としての取組はまだ行っていません。子供たちの大切な将来のためにも、市としての取組を実施するなどし、この地で教育を受けて良かったと思われる東大和市にすべきだと考えます。子供たちの毎日は貴重なものです。新たな取り組みが早期に行われることに期待を寄せ、注目をしていきたいと思えます。